

下図から染付・刺繍まで手作業の逸品 「本物」の着物で日々の暮らしを 華やかに装う

京和工藝



国見社長を囲んで、従業員のみなさん

お召しいただける。お客様の声を直接着物に反映させられることが特長で、皇族の皆様をはじめ、着物愛好家の方々には、親子代々世代を超えてご愛顧くださっているお客様も数多い。

着物の制作から販売までを一貫して行う同社のような会社は、今や日本全国でも大変稀少な存在だが、何カ月もの時間と20以上の工程を経て、施した刺繍一つひとつまですべて手作業で創り上げるため、優れた職人や技術の継承が難しくなり、品質の維持・向上が今後の課題である。しかし、現在、結婚式などでも着物離れが進んでいるのは、“本物”の着物が少なくなったことも一因と考え、社員、職人が一丸となって、独自の「本物の着物を創り続け、日本の伝統工芸である呉服文化の維持、保存に取組んでいく。」

同社ホームページ (<http://www.kyowakogei.com/>)には「今月の着物」として掲載された季節折々の名品や着物制作の工程などをご覧いただけるので、ぜひアクセスを！

京和工藝（世田谷区若林、国見修二社長、03・3413・0118）は、すべての着物のデザインや色調を自社で考案し、優れた職人たちが束ねながら、オリジナルの本格的呉服を制作する高級呉服店である。昭和22年に「協和工房」として創業、昭和26年に「京和工藝株式会社」として法人成りし、現在に至っている。

振袖、黒留袖、色留袖、訪問着、刺繍加工帯と女性向けの着物を中心に、その他お洒落着、染め帯など和装の関連商品を制作し、お手持ちの着物のメンテナンスやリフォームも手がけている。古典を題材にした伝統的な文様を現代的な色彩感覚と合わせ、品格と華やかさはそのままに、定番の柄でも新鮮に



「至上幸招錦」と題された逸品